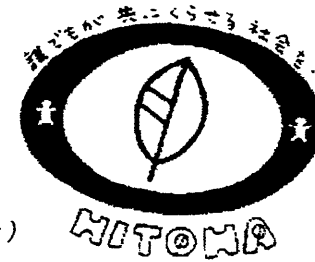


2021年(R3年)



No. 357

ひとはつうしん



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

甲田町にある就労センターあっぷは、働いて給料アップを目指すことから、21年前、その名がつけられました。この間、ひとはの製造品目が変わるように、いろいろな制度や法律、あり方も変わっていますが、“大切にすべきは何か”を考える今日です。

あっぷの活動の中で、「きららの為に」と話をすることがあります。近くにあるコンビニへ頻繁に行くきららの健康や金銭を考えると、いつの間にか制限をかけることが当たり前となっている時も。ふとスタッフである自分に置き換えて、どうだろうかと立ち返ることがあり、本当にきららの為なのか、それともスタッフの都合に合わせてきららの為と言っているのか、悩むことがあります。

会社を辞めてあっぷに来られるきららもいます。その人たちから話を聞く中で、「有給休暇はないの？」という言葉に、“ひとはの中だけで常識を作っていないか”とドキッとさせられることがありました。法律上は就労のための訓練の場であると位置づけられている反面、普段はきららもスタッフ同様働いていると言っていること。対等な立場とは、本当の意味での当たりの生活とは。「あんたのためでしょ」ではなく“一緒に考えること”。今一度大切なことは何か、今やっていることが正しいでは

なく、本当にこれでいいのかと疑問を持ち、考え、取り組んでいきたいと思えます。
(就労センターあっぷ 城崎 高治)

スタッフ紹介

名前 山廣 真央

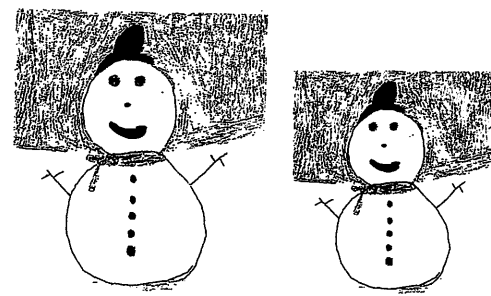
所属 ひとは工房

ほめてあげたい過去の自分

大学受験をがんばった自分



絵: 追田 祐子



絵: 園部 清道

新しくリーフレットが出来上がりました。デザイナーの田中賢さんと担当者の一人である寺尾真さんによる対談です。

寺尾(以下、寺): リーフレットづくりは何もまとまっていない状態で田中さんに相談した所から始まりました。

田中(以下、田): 始まりは写真がいっぱいあって、載せたい情報があり過ぎ、どこを切り取るか...という感じで、ひとはのことを真直ぐに届けるためにはどうすればいいかと。

寺: 田中さんがうまく情報の整理をしてくださり、一本の線になった印象があります。

田: 打ち合わせの中で、ひとはの日常の中に良さが詰まっていることに気づき、情報をぎゅっとさせ過ぎず、また写真を変な形に切り取ったのは、日常が揺れ動いている感じの一要素としています。四角のまま写真が並んでいる所はフィルムイメージです。

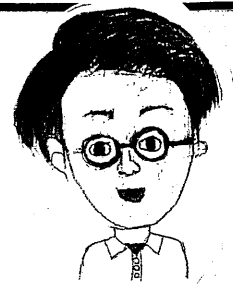
寺: 田中さんが「こういう感じですか?」と聞きながら、伴走して下さったように思います。タイトルも田中さんの提案です。

田: “きになる”には2つの意味があります。「ひとは」という言葉には利用する人、職員、地元の人達が含まれていて、それぞれが一つの葉っぱであり、ひとはの取り組みから広がって良い社会になっていった時の姿はどんな姿だろうと考えた時に、“木になるひとは”。もう一つは、今までひとはのことを知らなかった人に渡すリーフレットだったので、ひとはのことが“気になる”存在になるようにと願いを込めています。

*リーフレット... 折りたたみ式の印刷物



田中さんはもち麦どーナツのパッケージをデザインしてくださいました。



田中賢さん

絵: 高伏 洋和

「待ちわびていた」

遡ること、2年前。子年生まれの長女にひとは窯制作のねずみの置物をプレゼント。

とても喜び、さっそく自分の机の上に飾っていました。それを、横でうらやましうに見ていた

当時10歳の次女。「その時が来たら、必ずあなたにもプレゼントするからね」と。

2年後の先日、約束通り寅の置物を次女の手に。手のひらにのせて、眺めて

いました。「このトラさんは、何人もの作り手によって、と出来上がったもの。2年

と越して手に入れたあなたの気持ちも加わり、存在感があるでしょう。」と話をす

と、次女は「ふーん」なんて聞いていたけど... ずっと大切にしてください。一目見て、

かわいい!と言ったのが、何よりの証拠です。(事務局 築城 暁子)

「くっさ!」

朝、換気をするために窓を開けると冷たい風が入ってきました。急いでポケットに

手を入れると硬い感触が... なんだろうと思って触っていると「はき、」と音が鳴り

ました。その瞬間、久しぶりにあの臭いが漂ってきます。間違えてカメムシをつぶしてしま

いの、服がカメムシの臭いに大変身。そのことを子どもたちに話し「今日は抱き着かん

方がいいよ」とくぎを刺す。碧空くんが半信半疑で抱き着くと「くっさ!」の一言。

「もう!臭いじゃないか」と言われ「それじゃあ山崎さんが臭いことになるじゃないか」と

ちよとした漫才を交わしました。(くらむぼん 山崎真志郎)

「経験は消えない」

83歳の佐々木千代子さんはひとはを利用して14年。今年始まったえびす茶

の収穫では、だれよりも慣れた手つきで枝葉をカットする姿が。自宅で家事や

農業の手伝いをしてきた経験が今も活かされているなと感じました。

佐々木さんの口癖は「明けも暮れても仕事」。耳がイタイ...

(ひとは作業所 寺尾 久美子)



絵: 石川 さおり

語り継ぎたいこと

おい 聴こえますか 改訂版

が取つてしもうた。」とつぶやきました。いつぱしの働き手として、頑張つとるんじやが。」という無念さが響いてきます。時代の流れとは言葉、貞近さんの気持ちにうなずく以外にありません。ハンデイを乗り越え、「世話ないよの。」(任せときんさい、という意味かな。)と何でも気軽に引き受けてくれる貞近さん、長生きしてくださいよ。

貞近さんは現在92歳になられています。

昔はね、働いてるが女たんじや、いまはトラクターが取つしもうた。

貞近さんは、ひとは一の働き者といつても、過言ではありません。まもなく70歳に手が届こうとしていますが、昔とつた杵柄は、そうたやすくはさびていないのでしよう。とにかくよく動きます。得意としている農業の鋏の使い方などは、誰にも負けません。パツパと手に睡し、畝づくりに励む姿は堂に入ったもの。まさに「いよつ!貞近さん。」と思わず声をかけたくなるほどです。そのうえ、温厚を絵に描いたようにいつも笑顔絶やさない態度は、見習わなくてはなりません。

その貞近さんにも大きな不満があります。向原の田んぼもすでにほとんどが圃場整備され、農作業も機械化されています。ですから、いくら鋏の使い方に自信があつても、技を見せる機会が無くなってしまったのです。農作業を終え、汗を拭きながら仕事ぶりを讃えると、ぼつり「昔はワシの働くところがあつたんじやが、いまはトラクター」

編集後記

来年のひとはの年賀状は、貞近さんが日常をカメラに収めたものから作成しました。何枚ものバ打たれる写真の中から厳選し、お届けします。

先日、家で柚子ジャム作りをした。毎年この時期になるといただくことがあり、恒例になっている。今回は初めて「加熱なし」で作るレシピに挑戦。保存容器に入れ、寝かせて完成とのこと。うまくできるか、ワクワクしながら待っている。(白井 くみこ)